

大崎ひまわり訪問看護ステーション 松山サテライト

症 例 概 要 利用者：70歳代 男性 要介護5

病名：頸髄損傷 後縦靱帯硬化症 糖尿病 頸部内径動脈狭窄症 脳梗塞
狭心症

経過：2009年、農作業中に不慮の事故で頸髄損傷受傷され、日常生活全般において介助を要する状態となる。看護師の介入とセラピストによるリハビリを開始。自力体動困難で、後遺症による中枢神経症状から、臀部にD4の褥瘡を発生。約3年かけて褥瘡完治。更に脳梗塞、狭心症発症。痺れや痛み等様々な症状と向き合いながら、前向きに在宅生活を継続している。

内 容

不慮の事故により頸髄損傷となった後も、父として夫としての役割を担っており、ご家族を見守っていた。いつも皆と一緒に食卓を囲んでいたが、後遺症の中枢神経症状から、臀部にD4の褥瘡を発生、終日ベッド上生活を余儀なくされた。入院治療と、看護師が連日訪問で処置を実施し、同時に奥様へ生活上のアドバイスと、精神的な不安のサポートを行った。改善に難渋する中、チーム一丸となってポジショニングや環境作りを検討し、1日でも早い治癒を目指した。その間脳梗塞や狭心症を発症。痛みや痺れ、耳鳴り等で不眠が続き、様々な症状と向き合う日々でもあった。自身では動けない状態に不安、悔しさ、哀しみでネガティブな状態が顕著に見られた。「この状態になって13年、もういいわ。」と悲観的な言葉が聴かれたり、怒りを表出する場面もあった。その都度傾聴し受け止め、献身的な介護をされている奥様と一緒に励まし続け、闘病生活を継続していった。結果約3年かけて褥瘡完治を迎えることとなった。

受傷後は外出することもなく限られた生活空間で過ごされており、受傷前は当たり前のように観ていた桜を何年も間近で眺めることがなかった。そこで褥瘡完治のお祝いにお花見を企画し、決行。

車椅子に乗車し、桜の樹の下でご本人の掛け声と共に皆で乾杯し、普段あまり表情を見せない方であるが、奥様ととびきりの笑顔が弾けていた。穏やかな表情で、じっくり桜を見つめている姿が印象的で、全身で外の空気を感じて頂き、「観たかった。いい風だ。」と最高のお言葉も聞かれ、こちらも嬉しい気持ちでいっぱいになった。

「また来年も観に来ましょう。」これからも二人三脚のご夫婦に寄り添い、ひまわりOurチームとして支援していきたい。